

令和6年度 宮崎県 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、自信をもって英語で自分の思いや考えを伝え合うことのできる基礎的な能力の育成。

○ 75%以上の時間言語活動を実施する学校の割合 (R5: 50.8% ⇒ R6: 60%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業中、50%以上言語活動を行っている学校の割合
(R4:90.7%⇒R5:97.1%)

②CAN-DOリスト形式による学習到達目標の設定状況等

設定 (R4:87%⇒R5:100%)

公表 (R4:82.6%⇒R5:100%)

把握 (R4:87.0%⇒R5:100%)

未だ改善が必要な点

①パフォーマンステストを実施した学校の割合

(R4:90.9%⇒R5:87.7%)

2. 要因分析

①研修において、より具体的な言語活動の例を示したことがポイント増につながったと考えられる。

②令和4年度の研修において、CAN-DOリストの活用について周知することができたことと、外国語専科加配教員に対するサポートにおいてCAN-DOリストの活用について個別に理解を深めることができたことが100%になった要因と考えられる。

①パフォーマンステストの実施方法および具体的な評価方法について自信をもてない教員がいることが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

言語活動を通した授業を実践できる教師の育成

○大学教授等のティーチング・ディレクターを講師とした講義及び指導主事による模擬授業等を通して、言語活動を通じて指導する授業づくりについて学ぶ研修を実施する。

○本県指導教諭による授業を参観し、言語活動を通して指導するための1単位時間の授業作りについて学び合う実践的な研修を実施する。

指導に不安や悩みを持つ教員のサポートを推進

初めて外国語を指導する教員や授業づくりに対して不安や悩みをもつ教員を支援する小学校外国語実践加配教員を県内の教育事務所管内(3箇所)に配置し、TTによる授業支援や小学校外国語の指導方法等に関して助言を行う。具体的には、年間70日を上限に、配置校以外で支援を実施したり、Zoom等を用いて質問に答えたりする等、支援を求める教員に寄り添ったサポート体制を構築する。

令和6年度 宮崎県 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、自信をもって英語で自分の思いや考えを伝え合うことのできる資質・能力の育成を目指す。

- 50%以上の時間言語活動を実施する学校の割合 (R5: 74% ⇒ R6: 75%)
- CEFR A1レベル相当以上の生徒の割合 (R5: 49.5% ⇒ R6: 53%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①小学校と連携している学校の割合

(R4:61.6%⇒R5:84.9%)

②授業中、50%以上言語活動を行っている学校の割合

(R4:60.9%⇒R5:74.0%)

未だ改善が必要な点

①授業中、発話の50%以上を英語で行っている学校の割合

(R4:67.8%⇒R5:56.2%)

②R5全国学力・学習状況調査において、読むことについての正答率が全国平均と比べ著しく低い。特に事実と考えを区別して読むことの正答率が低かった。

(全国:64.5%⇒R5:56.3%)

2. 要因分析

①小中高合同研修会において、小学校および高等学校との接続に関することおよび連携についての研修を行ったことがポイント増につながったと考えられる。

②各種研修等において、より具体的な言語活動の例を示したことがポイント増につながったと考えられる。しかし、どのような活動が言語活動と言えるのか理解しているかが不確実である。

①授業における教師の英語の発話量が生徒の英語力に関係することについて、理解が十分でないことが要因と考えられる。

②様々な媒体で使われる表現に触れさせ、自分の考えを述べる言語活動の重要性に関する理解が十分でないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

授業力向上のための研修を実施

大学教授等のティーチング・ディレクターを講師とした講義及び演習を通じて、言語活動の重要性および読むことの指導を含む効果的な言語活動の実施方法についての理解をさらに深めることができる研修を実施する。

中学校外国語リーダーの育成

若手の英語教員をこれからのリーダーとして7名選拔し、ティーチング・ディレクターによる指導を仰ぎながら授業力を磨き、研修成果として、各学校が校内研修等において活用できる研修コンテンツを作成する。

指導教諭による授業研修会

発話の重要性について理解を深めるため、指導教諭による授業研修会で、授業中における教師の英語の発話の在り方やパフォーマンス評価について実践を示す。

中学校英語教育推進加配教員によるサポートを推進

外国語の授業や指導に困り感のある教員を支援する中学校英語推進加配教員を県内の教育事務所管内(3箇所)に配置する。

令和6年度 宮崎県 英語教育改善プラン

目標

5 領域の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動の充実。
学習到達目標を明確にした「指導と評価の一体化」の充実。

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5 : A2以上 47.0%、B1以上 18.2% ⇒ R6 : A2以上 52.0%、B1以上 22.0%)
- 授業における生徒の英語による言語活動が、授業の半分以上と回答した学校の割合 (R5 : 54.3% ⇒ R6 : 60%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業中、50%以上の時間、言語活動を行っている学校の割合が飛躍的に改善。
(R4:42.7%⇒R5:54.3%)

②英語担当教師の英語使用状況が改善。
(R4:47.1%⇒R5:53.2%)

未だ改善が必要な点

①CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合は引き続き改善が必要である。
(R4:A2以上 47.8%
B1以上 17.0%
⇒R5:A2以上 47.0%
B1以上 18.2%)

②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標を公表している学科が昨年から減少した。
(R4:58.3%⇒R5:47.7%)

2. 要因分析

①教育課程研究協議会、小中高合同研修会において、言語活動の具体について演習・協議を実施したことが要因と考えられる。

②言語活動の充実 (R4: 42.7% ⇒ R5: 54.3%)、ALTの参画の更なる充実を図る中で、教師の英語使用状況も一体的に改善していったことが考えられる。

①A2以上が減少の一方で、B1以上の増加が見られる。「授業中50%以上の言語活動を実施の学校」及び「教師の英語使用状況」の割合は普通科での上昇が大きいのに対し、その他の学科で伸び幅が小さいため、その他の学科における言語活動、教師の英語使用状況の改善が必要であると考えられる。

②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の達成状況の把握 (R4: 60.4 %⇒R5: 63.6%) が改善している中での減少であるため、授業のガイダンスにおける活用がなされていないことが要因であると考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①「世界とつながる高校生海外留学支援事業」の実施
グローバル人材の育成を目的とした、海外留学支援事業、グローバルキャンプ（イングリッシュキャンプ）、留学支援フェア、探究学習をフィールドとするグローバルフォーラムを開催予定。事業を通して、英語でのコミュニケーション能力を積極的に活用する場を設けていく。

①②「新時代に対応した高校授業改革推進事業」の実施
本県の学力向上事業「新時代に対応した高校授業改革推進事業」において、「指導と評価の一体化」をテーマに授業公開を実施する予定であるが、研究指定校にはCAN-DOリストを原点に据えた授業研究を進めてもらう。

①②①ALT(外国語指導助手)授業力向上のための研修
“Peer Observation”の実施
・新規ALTの配置校を指導主事、県PA、先輩ALTで訪問し、授業参観、外国語科との協議を、事後研修として新規ALTが先輩ALTの学校を訪問、授業参観、協議を行い、更なる言語活動の充実を推進する。

①①教育課程研究協議会の充実
外部講師(大学教員)を招聘し、「情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力」を育成するための統合的な言語活動の実施を意識した、実践的な演習形式の講演を実施予定。

宮崎県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		55	47	52		54		57		60	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		20	18.2	22		24		27		30	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		55	54.3	60		63		66		70	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		58	54.1	60		70		80		95	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	65	47.7	85		90		95		100	
		達成状況の把握（％）	82	63.6	85		90		95		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		92	93.9	94		95		96		97	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		55	53.2	58		62		66		70	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合（％）		50	49.5	53		56		59		62	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合（％）		70	74	75		75		80		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（％）		80	66.6	85		90		95		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	100	100	100		100		100		100	
		公表（％）	100	99.2	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	90	99.2	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合（％）		50	43.8	45		50		55		60	
	⑥英語担当教員の授業における英語使用状況（％）		70	56.2	60		65		70		75	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定（％）	90	100	100		100		100		100	
		公表（％）	85	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握（％）	90	100	100		100		100		100	